

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 1階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	令和3年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2296900075-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2296900075-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前には散歩・畑の様子観察に始まり、お日様の恵みをしっかりと浴びて一日がスタート。外の空気に触れること・身体をしっかりと動かすことを生活の中心としています。敷地内の畑では、じゃがいも・夏野菜(トマト・きゅうり・ピーマン・なす・オクラ・ゴーヤ・南瓜・すいか)・海老芋・さつまいもを育て、自分達で収穫した新鮮野菜を「今日は何にしよう…明日はこうしよう…」美味しく頂いております。現在、外出や地域交流会(夏は流しそうめん・天ぷら、秋は焼き芋・芋煮会)も実施出来ませんが、ご家族様のご要望にてウェブ面会の実施や「つどいだより」や「今月の一枚」を発行して、施設での生活の様子をお知らせしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緊急事態宣言中は玄関で補充品を受け取る程度ですが、家族は朝9時から10時が散歩タイムと承知しており、その頃を見計らって来所する人もいます。このように日の光を毎朝浴びることを健康の主軸としていることは内外に浸透、在所率の高さにも突っ込んでいます。また働きやすさにも秀でており、ユニットリーダーを中心にチームの課題解決に意欲的に取り組む一方で、リーダー会議ではリーダーの愚痴も受けとめ、管理者のフォローシップを以てストレス解消を図るなど旨く調整が叶っています。コロナに明け暮れ、四季折々の花を見に行けないことは課題としつつも、マネジメントサイクルを定着させていることに安心感を覚える事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を玄関や2Fエレベーターホール、スタッフ室内に掲示して、理念の実現に向けて努力している。	各ユニットで理念を踏まえた年間目標を作成しています。さらに月間目標に落とし込むことで実践を確かなものとし、落ちつかない利用者に職員がソファに並んで座って話を聴く様子を見て、管理者は「何を優先すべきか、わかっている」と受けとめています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は行われていない。	町内会費を納めており、地域情報が定期で入っています。また津波・水害の垂直訓練は屋上を提供しており、コロナ禍前には夏の流しソーメンには若竹を切り出し、畑の収穫物で焼きいもや芋煮会で賑わうなかに地域住民の顔もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市から開催中止の要望があり、現在は会議録の提出にて、施設の活動報告をしている。	昨年の3月から書面開催に切り替えています。リーダー会議での情報を整備するなどして管理者が2ヶ月分の運営状況を取りまとめ、参加できる利用者にも席についてもらって内部者のみで開催しています。会議録は市役所をはじめメンバーに届けています。	メンバーに届ける議事録には返信シートも同封して意見を募り、ツウエイとすることを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに入居状況の報告をしている。新型コロナワクチン接種に関して、市の対策班と連携をとって実施できた。	転倒事故における連携のほか運営推進会議の議事録は隔月で窓口に届けています。ワクチン接種では職員の居住市町が別であっても勤務地として一斉に受けることができ、マスクや消毒液も届いています。また行政情報もeメールで共有されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で協力して見守り対応している。施設内の委員会や身体拘束フォーラムの動画視聴にて理解を深めている。	「身体的拘束適正化検討委員会」を四半期開催として常態化させるとともに年2回の研修会、新人研修と身体拘束未実施減算に係る決まりを遵守しています。「待って」「座ってね」といった口癖を一掃できていないものの、総じて穏やかな雰囲気を保っています。	委員会名称が書面によってまちまちなことは早めに是正し、名称統一が進むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加参加して、理解と防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会に参加し理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方もあり、保佐人と連絡をとり合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を交付し、説明。同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置し、窓口を明確にしている。	「つどいだより」「今月の1枚」を家族に届けており、コロナ禍にあっても中の様子がわかるよう配慮しています。書面には「職員から生活の様子」が綴られ、毎回担当が違うことで異なる視点が入り、家族も様々な職員からのフレッシュな情報を得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度時間を要して、様々な内容の会議を行っている。月一回のリーダー会議や年一回の職員面談を実施している。	「協力しておこなう」「できないことをフォローする」との体制を整えています。管理者とユニットリーダーの下「強みを伸ばしていこう」と気持ちを一つにできていて、「まだまだのびしろがある」とのプラス思考で業務にあたっています。年1回、面談もおこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて働きやすい環境づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて定期的に確認、指導している。同法人内の勉強会に参加を促し、認知症介護実践者研修等外部研修への参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は行われていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居生活が送れるように、法人内の感染対策委員会の決定事項に従い、場合によっては玄関先で離れた場所での面談機会を設けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談受けることを説明し、可能な限り時間外での対応・訪問も受けられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、併設施設の医師や看護師・OT・栄養士等と連携し、その方に合ったサービス提供が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念のもと、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人アルバムの作成や、毎月、つどいだよりor今月の一枚の発行にて生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容室など)や家人との交流が継続できる支援を心掛けている。	法人の「感染対策委員会」にてコロナ対策のルールが定められ、緊急事態宣言中は玄関で補充品の受け渡しをする程度ですが、散歩の時間帯を見計らって訪れる家族もいます。マイふりかけや朝のヨーグルトなど、食習慣の継続も日々図られています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出(散歩)時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況確認をしたり、入院(入所)先への訪問をしている。年二回開催する地域交流会の案内をお知らせしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の様子を照らし合わせて、言葉にならない想いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。	ひもときシートを習熟、センター方式も一部導入しており、総じて本件に真摯に向き合っています。13時半から14時を即時解決のモニタリングタイムと位置づけ、概ね2日に1度は現場における協議があって、その人ならではの情報が拾えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式、ひもときシートの活用でアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当職員もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を公表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。	生活機能向上加算取得から「生活機能アセスメントシート」を3ヶ月毎のモニタリングを通じて必ず更新させています。また身体機能向上における目標を1ヶ月毎に設けて「よくみる」ように自然と成り、よくみることができる職員が増え、介護計画の実践に功奏しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルに沿って個別記録を記入。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課チェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括・市役所・自治会等との意見交換やボランティア団体による行事の計画、地域住民へ参加の呼びかけも現在は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。	協力医は精神を含む内科医として関わっていただき、半数の利用者を診ています。法人内、敷地内との好条件とはいえ、体調不良があればすぐ駆けつけ、概ね週1度は立ち寄ってくださいます。医療情報はリーダー「療養記録」に残し、共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1日程度訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間体制で連携出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族と情報を集約し、担当医師や看護師と相談。今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針と緊急時の延命治療要望について家族に説明し、確認・同意を得ている。	24時間点滴治療が必要なケースにおいても家族や本人の意向をおもんばかり、法人内の看護師の助けも受けてできる限り皆と過ごすことができます。夫妻で入居していたことから、間際まで一緒に暮らすことを支援できて達成感に満ちた取組みとなりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようにスタッフ室内に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも、津波に備えて、階段を使用して入居者を二階へ誘導する訓練を全職員が参加できるようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上に上がり活用している。	10月の後半に地震想定津波で搬送訓練を予定しています。非常階段をのぼる訓練はその日限りせず、全職員が体験できるよう配しています。また日常の散歩においても両ユニットの助け合いと交流機会をつくり、有事に備えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。	居室は内側から鍵をかけることができます。利用者3名が夜間自ら施錠をおこなうため、何かあったときのリスクから家族と本人に了承を得て、夜間巡回時には職員がマスターキーで一度中を確認させてもらっています。また呼称の「～さん」は徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、できる限り意に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けている。趣味・嗜好活動の提供は、同法人内の施設職員とも連携して、個人の希望に沿った支援ができるように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて美容室への付き添いや施設では定期的に理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、ご家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、嗜好に合わせて個別の対応もしている。食事の支度・片付け等は出来る範囲で職員と一緒に。週二回の料理人によるお楽しみ弁当も充実している。	料理人のセレクトメニューは人気でしたが人のがよくなってしまい混乱の元となるため、現在は1本化させ、またコロナ禍でお重箱の「お楽しみ弁当」に替えて、プロの手業の活きた旬のものを堪能しています。おやつはホットケーキなどの参加型を工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士と月一回栄養ケアに関する会議を開催している。食材は栄養バランスの整った宅配業者を利用。自施設の畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェックや個別の補食も管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導・助言を受け、口腔内の確認・口腔ケアの実施をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。	後確認などのフォローは要るもののトイレ誘導が必要な人は少ない状況にあり、便秘についても「朝からスッキリして欲しい」「夜中にもよおしたらかわいそう」との思いが、運動や水分補給の他ハッカ油のタオル湿布や朝の野菜ジュースの取組みとなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩・体操にて身体を動かしている。毎朝野菜ジュースの提供にて便秘予防に努めている。個別に合った下剤調整・メンタ湿布の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や予定・気分に合わせて、柔軟な対応をしている。	1日2名で「ゆったり」を旨としています。水虫には足浴、老人性湿疹があれば清拭と対応するも、「入りたくない」人もいて「日をかえ、人をかえ、時間をかえ」でなんとか清潔を保っています。。気持ちよくなると十八番の「南国土佐を後にして」を歌う人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて休憩時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡をとり、医師の指示にて内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事の支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人や家族の要望に応じて対応をしている。現在、買い物はカタログをみて商品を選び、週一回の移動スーパーにて購入している。	毎日の散歩が主体ですが、時には福田漁港までの降りないドライブもあります。また職員が出かけたとき撮影した動画を見せて「きれいだったよ」と話したり、行事を2つのユニット合同でおこなって人とのふれあいを減らさないように気遣っています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理をしている。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやりとりも個別に対応している。年賀状は入居者全員が家族や友人等に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのお花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファの設置にて心地よく過ごしている。	職員がこまめに飾る生花や梅ジュース、おはぎなどで季節に囲まれた暮らしを続けています。掃除はアルコール度数の高いものに替え、1日3回と回数が増えています。また室内時間が長いいため、至るところにあるソファを生かして職員が話を聞くことに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。ソファの設置にて仲間との談笑、のんびりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や馴染みの物、嗜好品や自身の作品を掲示して自分らしい部屋・環境作りに努めている。	携帯電話3名、お位牌3名、中には盆栽と、思い思いのものを自由に持ち込んでいます。また、入居後に此処で作った作品や写真を飾る人もいます。現状は大きく変える必要がある人はいませんが、状態変化に応じて動線確保の家具移動なども随時おこなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで歩行器や車椅子は自由に移動が出来る。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。居室やトイレを分かりやすく表示したり、居室内を安全に動けるようにベッドや家具の配置をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 2階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	令和3年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;ji_gyosyoCd=2296900075-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;ji_gyosyoCd=2296900075-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前には散歩・畑の様子観察に始まり、お日様の恵みをしっかりと浴びて一日がスタート。外の空気に触れること・身体をしっかりと動かすことを生活の中心としています。敷地内の畑では、じゃがいも・夏野菜(トマト・きゅうり・ピーマン・なす・オクラ・ゴーヤ・南瓜・すいか)・海老芋・さつまいもを育て、自分達で収穫した新鮮野菜を「今日は何にしよう…明日はこうしよう…」美味しく頂いております。現在、外出や地域交流会(夏は流しそうめん・天ぷら、秋は焼き芋・芋煮会)も実施出来ませんが、ご家族様のご要望にてウェブ面会の実施や「つどいだより」や「今月の一枚」を発行して、施設での生活の様子をお知らせしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緊急事態宣言中は玄関で補充品を受け取る程度ですが、家族は朝9時から10時が散歩タイムと承知しており、その頃を見計らって来所する人もいます。このように日の光を毎朝浴びることを健康の主軸としていることは内外に浸透、在所率の高さにも突っ込んでいます。また働きやすさにも秀でており、ユニットリーダーを中心にチームの課題解決に意欲的に取り組む一方で、リーダー会議ではリーダーの愚痴も受けとめ、管理者のフォローシップを以てストレス解消を図るなど旨く調整が叶っています。コロナに明け暮れ、四季折々の花を見に行けないことは課題としつつも、マネジメントサイクルを定着させていることに安心感を覚える事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を玄関や2Fエレベーターホール、スタッフ室内に掲示して、理念の実現に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は行われていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市から開催中止の要望があり、現在は会議録の提出にて、施設の活動報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めに入居状況の報告をしている。新型コロナウイルスワクチン接種に関して、市の対策班と連携をとって実施できた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で協力して見守り対応している。施設内の委員会や身体拘束フォーラムの動画視聴にて理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加参加して、理解と防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会に参加し理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方もあり、保佐人と連絡をとり合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を交付し、説明。同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置し、窓口を明確にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度時間を要して、様々な内容の会議を行っている。月一回のリーダー会議や年一回の職員面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて働きやすい環境づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて定期的に確認、指導している。同法人内の勉強会に参加を促し、認知症介護実践者研修等外部研修への参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は行われていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居生活が送れるように、法人内の感染対策委員会の決定事項に従い、場合によっては玄関先で離れた場所での面談機会を設けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談受けることを説明し、可能な限り時間外での対応・訪問も受けられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、併設施設の医師や看護師・OT・栄養士等と連携し、その方に合ったサービス提供が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念のもと、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人アルバムの作成や、毎月、つどいだよりor今月の一枚の発行にて生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容室など)や家人との交流が継続できる支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出(散歩)時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況確認をしたり、入院(入所)先への訪問をしている。年二回開催する地域交流会の案内をお知らせしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の様子を照らし合わせて、言葉にならない想いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式、ひもときシートの活用でアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当職員もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を公表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルに沿って個別記録を記入。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課チェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括・市役所・自治会等との意見交換やボランティア団体による行事の計画、地域住民へ参加の呼びかけも現在は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1日程度訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間体制で連携出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族と情報を集約し、担当医師や看護師と相談。今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針と緊急時の延命治療要望について家族に説明し、確認・同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようにスタッフ室内に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも、津波に備えて、階段を使用して入居者を二階へ誘導する訓練を全職員が参加できるようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上に上がり活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、できる限り意に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けている。趣味・嗜好活動の提供は、同法人内の施設職員とも連携して、個人の希望に沿った支援ができるように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて美容室への付き添いや施設では定期的に理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、ご家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、嗜好に合わせて個別の対応もしている。食事の支度・片付け等は出来る範囲で職員と一緒にを行う。週二回の料理人によるお楽しみ弁当も充実している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士と月一回栄養ケアに関する会議を開催している。食材は栄養バランスの整った宅配業者を利用。自施設の畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェックや個別の補食も管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導・助言を受け、口腔内の確認・口腔ケアの実施をしている		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩・体操にて身体を動かしている。毎朝野菜ジュースの提供にて便秘予防に努めている。個別に合った下剤調整・メンタ湿布の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や予定・気分に合わせて、柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて休憩時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡をとり、医師の指示にて内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事の支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望に応じて対応をしている。現在、買い物はカタログをみて商品を選び、週一回の移動スーパーにて購入している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理をしている。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやりとりも個別に対応している。年賀状は入居者全員が家族や友人等に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのお花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファーの設置にて心地よく過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。ソファーの設置にて仲間との談笑、のんびりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や馴染みの物、嗜好品や自身の作品を掲示して自分らしい部屋・環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで歩行器や車椅子は自由に移動が出来る。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。居室やトイレを分かりやすく表示したり、居室内を安全に動けるようにベッドや家具の配置をしている。		